

経営情報学部 システム情報学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程の編成及び特色

育成すべき人材像に対応したコンピテンシーを設定し、コンピテンシーに関連付けた科目を体系的に編成し、適切な教育方法で授業を実施します。科目間の関連は、その内容や難易度にもとづきナンバリングして表現します。

情報処理技術者は、社会、企業、消費動向、人間を理解し、それぞれのニーズに合わせたソフトウェア開発やシステム設計及び的確な情報を提供できる専門性が求められています。当学科では、情報技術や ICT（情報通信技術）の基礎と経営学の基礎を系統的に学び、実践的な教育を行い、プレゼンテーションやコミュニケーション能力を養うようにカリキュラムを編成します。

2. 教育内容

（1）共通教育

本学の教育目的にある「生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力を育成」という視野のもと、共通教育が定める人材像の育成を実現するために、「基礎教育科目」と「人間教育科目」から構成されるカリキュラムを定め、以下に示す科目をバランスよく学ぶことにより、本学の特色ある教養教育の目的を達成します。

①「基礎教育科目」

・「人間教育科目」および専門科目を学ぶ上で基礎となる日本語力、論理的思考力、数的処理力、プレゼンテーション力、およびコミュニケーション力を育成します。

②「人間教育科目」

・「情報とクリティカルシンキング」を中核的な科目群とし、その基盤となる「人間」「社会」「自然」の科目群により、価値ある情報を見極める力、物事を幅広い視野からとらえる力、および論理的思考力を育成します。

③「総合」

・この科目群により、主体的に行動する基盤となる体力を育成します。また、国際交流科目により、異文化の理解力、国際感覚を育成します。さらに、キャリア教育により市民としての倫理観を身につけ、社会に貢献しようとする態度を育成します。

（2）専門教育

IT 社会に役立つ高度な情報技術と専門知識を身に付けるために履修モデルとしてコースを設け、基本的な知識を修得する重要性を自覚させ、演習を繰り返すことでそれらの知識の定着を図ります。そして、ゼミナールや演習系、プロジェクト系科目においては、基本的な知識をもとに、問題を発見し、解決案を提案できる能力、情報技術を使って分析を行い、結論に至る過程を論理的に説明できる能力、自分の考えをわかりやすく人に伝える表現力を育成します。

専門教育では以下に示す6つの教育プログラムを編成し、実施します。

①専門基礎科目

・2年次終了までにコンピュータサイエンスや ICT および経営学の基礎を学習します。

②系統的学習と専門性を高めるコース制

・それぞれの専門コースは、コース推奨科目を学習することで、対応する専門性を身に付けることを狙いとしています。1・2年次で学習する基礎的な科目と3・4年次の専門科目との

関係が明確になり、系統的に学習できます。

③プログラミング教育

・Java 言語をベースにプログラミングの基礎を習熟度別に学び、Python 言語をベースにシステムプログラミングを学び、組み込みシステム、ネットワーク、データベース、画像処理、CG などの応用的なプログラミングを学びます。また、オブジェクト指向技術に基づく実践的なプログラミング能力を身に付けます。

④応用力育成に向けた科目

・知識や技術の応用力を、PBL (Project Based Learning) を採用した科目及びゼミナール I、II、III、卒業論文で養います。

⑤経営学系科目

・企業情報システムを構築するときには、ビジネス分野における ICT 活用や経営戦略を理解することが必要となります。このため、関連する経営学系科目を履修できるようにします。ビジネス分野における ICT 活用や経営戦略を学びます。

⑥教職系専門科目

教職「情報」(高校) および教職「数学」(中学、高校) の免許を取得するために必要な知識、スキルを学びます。

3. 教育方法

教育の方法については以下のように定めます。

①基礎教育科目

・初年次教育科目を含む「基礎教育科目」は、1年生を対象とし、20人から40人の少人数でクラスを構成します。これにより、グループワークや少人数で行うアクティブ・ラーニングを行います。また、初年次教育科目では、タイムマネジメント、倫理、心と体の健康、クリティカルシンキングへの導入なども行います。タイムマネジメントでは、ラーニングマネジメントシステム上に本学が構築した「週ごとの時間管理システム」を活用します。

②人間教育科目

・「人間教育科目」は、1年生から3年生に配置されます。多人数クラスになる科目がありますが、電子教科書やクリッカーおよび本学が開発した SNS 授業ツールも活用することで、アクティブ・ラーニングによる主体的な学びの実現を目指します。

③総合科目

・「総合」の国際交流科目では、学生を海外に派遣します。一部の国際交流科目では、海外の学生との協調学習によりグローバル人材を育成します。キャリア教育では一部で学習者適応型 eラーニングを取り入れます。

④専門科目

・専門科目の知識やスキルを確実に身に付けるために、適切に演習や実習を組み合わせ、知識の定着を図ります。また、科目の性質に応じて、個人やグループで考えさせて発表させる、学んだ知識を問う問題を考えさせるなどの教育手法を取り入れ、深く理解できるように工夫します。

⑤個人および組織における行動力の育成

・成果につながる行動特性を身に付けるために、ゼミナール I、II、III、卒業論文などにおいて、アクティブ・ラーニングの考え方にに基づき、問題発見、問題解決のためのグループ学

習、PBL、プレゼンテーションを取り入れ、「自分で問題を発見し、異なる意見の人達と議論し、問題解決を図る」という主体性を育む教育を実施します。

4. 学修成果の評価

学修成果の評価は以下の方法で行います。

①コミュニケーション力開発等の科目

・初年次教育科目などコミュニケーション力開発等の科目では、レポート、面接等で評価します。

②実技系の科目

・実技系の科目では、実技で評価します。

③知識伝達型の科目

・知識伝達型の科目では、小テスト、定期試験、課題、レポート等で評価します。

④スキル養成型科目

・スキル養成型の科目では、実習課題で評価します。

⑤4年間の学修成果

・4年間の学修の集大成として位置付けている卒業論文では、最終プレゼンテーションを実施し、全員の専門教員がプレゼンテーションを聴いて評価します。